

---

# Clone Eve

えみりあ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Clone Eve

### 【Zコード】

N7037M

### 【作者名】

えみりあ

### 【あらすじ】

クローンが存在する2XXXX年。クローンには「人権」も与えられ、「人」として生きる道を用意された。その中で、「人」として生まれた「ナオミ」。ひょんなことから、ナオミはクローンの「母」である「イヴ」を捜すことになった。美形なパートナーたちに囲まれての「イヴ」捜しは困難を極めるが…？

## 「クローン」という存在。

誰も、誰も、手にしてはならなかつた「禁忌」。

その「禁忌」の名は、クローン。

2000年代、人型クローンは成功することがないと言われてきた。だが、そうだらうか？

そう言われてきた時代には、秘密裏に人型クローンの開発が進められ、成功していたのかもしれない。

いや、完成していたのだろう。

そうでなければ、今のこの状態の説明がつかないのだから。

成功するはずのなかつた人型クローンの存在は、いつの間にか世間一般で認められ、クローンという存在に「人権」さえも与えられるよくなつたのだ。

さあ、もう目を開いてもいいだらう。

目を開けてみて、一番最初に目に入ったのは何かい？

女人だつて？フフフ・・・・。

何故笑うかつて？

いや、なんでもないさ・・・。

君の目に入ったその「女人」は、本当に「人間」であるのか？

もしかしたら、君の目の前にいる「人間」も、「人間」ではないのかも知れないよ・・・・・。

## 「クローン」という存在。（後書き）

初めてですので、誤字脱字があるかもしれません、がんばります  
ので見てやってくださいーーー！

# 1 - ? 初めまして

「で、ナオミはどうすんの?」

「…………へ?」

「…………へ?」

いつもの学校の帰り道。

いつものように友人とともに帰り道を共にするナオミ。

「話聞いてなかつたの…………?」

「う、うん…………」

「はあ～…………」

大げさに反応する友人の姿に、少し罪悪感を覚える。

だ、だつて、少しほーっとしてたんだから、話なんて聞けないよー。

「だから、明日の選択、どうすんの?」

「選択つて、クローン学のこと?」

「そうよ。取るの? 取らないの?」

あつ、そつか・・・・。

明日はクローン学の選択の日だ・・。

クローン学とは、その名通り、クローンにて学ぶ授業の「」  
だ。

一般的に、学校では選択制の授業となっている。

その理由とは、学校には「クローン」の生徒たちが通っている場合  
もあるので、彼らに対する配慮として選択制の授業となっている。

でも、明日はミシワード大学での講義だったな・・・。

「面倒くさこな・・・・」

「わいこい」と言わないー！

「アオイは、明日の出るへ・・・」

「やつたり前よーなもんたって、あのミシワード大学でやるのよー・

「…」

何でこんなに興奮したるわけ??

あそこって、広くて綺麗な良い学校だったけど、そこまですりへ  
秀てるよつなこと、あつたつけ?

「あそこひいて、美形集団の集まりなのよ……しかも、超がつくほど  
のね……」

「アハハヒーとか・・・・・

溜息をつく。

やつぱりセツコヒーとだつたか・・・・・。

なんか裏があると思つていたけど、美形見たさに選択するのか・・・  
・。

「だから、あんたも明日の選択取りなさいよ。一緒にイケメン探し  
ましょ」

「わかった・・・・・。明日、絶対に私とバディ組んでよねー間違つ  
てもイケメンと絶対組まないでよーーー！」

「わかった、わかった。この間のことは悪かつたって

この間のこととは、実験でバディを組む際、アオイは中々の美青年  
に誘われて、あつやうとナオミを捨てたのだった。

あの時、まったく知らない科学オタクっぽいぼつちやうと組まされ  
たんだからーー！  
ほんつと最悪だつた・・・・・。

あいつ、こんじろやつてることに対するイチャモンつけてくるわ、  
ウンチク語つてくるわで、何度も殴りたくなったことか・・・・・!  
!!

「だから、悪かつたつて・・・!だから、明日はあなたと一緒にバデ  
イ組むからぞ、ね?」

手を顔の前で合わせて、「ね?」と上皿づかいで迫つてくるアオイ  
に、そこから先は何も言えなかつた。

「あつ、あの人見たことある気がする」

ナオミが指差す先には、大画面に映るライブ映像だつた。  
人が多く通る交差点の真ん中のビルに、その大画面はぴつたりと配  
置されているのだった。

「そりゃ そりゃ。だつて、あの人私たちの親世代よりも前に活躍し  
たミージューションの『クローン』だもの」

そもそも当たり前のように答えた答えの中には、「クローン」という言  
葉が。

「あの人、何十年も前に亡くなつてゐよね?あのクローン、まだ2

0代前半ぐらいじゃない? 「

「亡くなつて隨分経つてから、遺言に従つてクローンにしたんだつて。ほんつと今更だよね~」

亡くなつた人は戻つてくるはずがないのに・・・。

今更クローンという存在を作つたところで、あのクローンが元の形になんて、なるはずがないのに・・・。バカみたい・・・。

人混みの中で立ち止まつていることは難しく、アオイに手を取られて画面の前を立ち去つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7037m/>

---

Clone Eve

2010年10月8日21時19分発行